

選挙：天理市長選 並河氏が初当選 石破氏来援も「自民」敗戦 再挑戦の藤本氏が次点

毎日新聞 2013年10月22日 地方版

元外務省職員の並河健氏（34）が、前県議の藤本昭広氏（67）と元市商工会専務理事の沢田昌久氏（57）＝自民推薦＝を破り、初当選した20日の天理市長選。3人の大接戦が予想されたが、意外ともいえる差が付いた。天理市は1988年、92年、2001年に3度も不祥事で市長が辞任。若さや外務省での行政経験に加え、しがらみのないクリーンな政治を望む市民の期待を反映した結果となった。【熊谷仁志、釣田祐喜、芝村侑美】

選挙戦は具体的な政策論争に乏しく、12年ぶりの新リーダーを決める選挙としては盛り上がりを欠いた。投票率は前回（55・43%）とほぼ同じ55・61%。並河氏への投票は全有権者の約21%だった。

注目されたのは、並河氏と自民との戦い。昨年12月の衆院選奈良2区で、並河氏（日本維新の会公認）と争った高市早苗政調会長の陣営が意地をかけてぶつかった。

「生駒の山を越え、大阪から（維新の）強い風が吹いてくる」。高市氏は衆院選で並河氏を最も警戒。陣営は「（後顧の憂いを絶つため）比例での復活を許さない」と最後まで引き締めた。

並河氏は「奈良府民」が多い生駒に事務所を置いたが、選挙戦で集会を唯一開いたのは天理市。投票前日、近鉄生駒駅前で雨中の最後の訴えには天理市議が付き添った。

並河氏は次点で落選。直後、維新を離れ天理で活動を始める。南佳策市長（76）が6月議会で引退を正式表明後に出馬表明。南市長も応援を約束し、告示直前には「私の後継者」と踏み込んだ。天理教会本部の大勢が支援した。

並河氏は20日夜、「一つ一つの積み重ねが、こんなに多くの人と喜びを分かち合えることにつながった」と語った。だが、選挙での訴えは抽象的な理念に終始し、数値などで政策を具体的に示すことは、ほぼなかった。

一方、沢田氏を推薦した自民。安倍晋三首相の顔写真を大きく載せたチラシを大量に配り、「自民党と共に天理市の財源を守る」と訴えた。石破茂幹事長も来援した。沢田氏は落選が決まると「私の不徳の致すところ」と頭を下げ、陣営関係者の一人は「自民の追い風で勝てるかと思ったが……」と語った。

しかし、並河氏も沢田氏も保守で、党内には「並河氏でいい」という声は少なくなかった。党推薦候補としては7月の奈良市長選に次ぐ連敗。奥山博康県連幹事長は「一枚岩でなかった」と話した。

再挑戦の藤本氏は次点に食い込み、意地を見せた。公共事業1割削減による福祉施策充実など他2人との政策の違いを鮮明にした。中学卒業までの医療費無料化は3候補の主張で唯一の具体的な公約と言えたが、厚い保守の壁は打ち破れなかった。藤本氏は20日夜、「政策は正しかったが、浸透しきれなかった」と悔しさをにじませた。

× × ×

並河氏は21日、市選管の堀内靖介委員長から当選証書を受け取り、「選挙が終わればノーサイド。市民の皆様にとことん使い倒してほしい。期待に応えられるようしっかり頑張る」と改めて意気込んだ。28日に初登庁する。

◆開票結果

◇天理市長選＝選管最終発表

当 11114 並河健 34 無新／9048 藤本昭広 67 無新／8590 沢田昌久 57 無新＝[自]